

氏名	有竹清夏	部署	健康開発学科	職名	准教授
研究分野	臨床生理学, 睡眠学, 時間生物学				
学位	博士 (保健学)				
学歴	2000年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業, 2003年東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程修了, 2006年東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了				
経歴	2000年日本大学医学部助手, 2001年国立精神・神経センター精神保健研究所/病院 研究員, 臨床検査技師, 2010年日本学術振興会特別研究員PD, 2012年ハーバード大学医学部/ブリガム&ウィメンズ病院リサーチフェロー, 2013年早稲田大学スポーツ科学学術院助教, 2017年東京大学大学院教育学研究科特任助教, 2017年埼玉県立大学健康開発学科准教授, 2023年埼玉県立大学健康開発学科教授				
所属学会 (役職)	日本睡眠学会 (評議員, 幹事 国際機関誌編集委員, ガイドライン委員会, ダイバーシティ委員会), 日本時間生物学会 (評議員), 日本PSG研究会 (幹事), 日本臨床神経生理学会, 日本臨床衛生検査技師会, 日本臨床検査学教育学会, American Association of Sleep Technologist (AASST), American Academy of Sleep Medicine (AASM), National Sleep Foundation (NSF)				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	睡眠中の時間知覚. 睡眠学の百科事典	単著	あり	丸善出版	有竹清夏, 日本睡眠学会 (編)	2023.3
2	パートナー (家族・同居人等も含めて) 睡眠学の百科事典	単著	あり	丸善出版	有竹清夏, 日本睡眠学会 (編)	2023.3
(2) 論文						
		単・共	査読	雑誌名、巻 (号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	睡眠状態誤認. 不眠症研究・診療の最新知識.	単著	なし	医歯薬出版, 医学のあゆみ 281(10):956-964	有竹清夏.	2022.6
2	睡眠覚醒障害. 反復睡眠潜時検査の実際の対象となる患者とは?	共著	なし	先端医学社, 精神科レジデント 3(3):18-20.	有竹清夏, 伏見もも.	2022.8
3	子どもの睡眠・生活リズムがその後の健康に及ぼす影響	単著	なし	子供と発育発達, 20(3)	有竹清夏.	2022.10
4	The association between subjective-objective discrepancies in sleep duration and mortality in older adults.	共著	あり	Sci Rep. 2022 Nov 4;12(1):18650.	Utsumi T, Yoshiike T, Kaneita Y, Aritake-Okada S, Matsui K, Nagao K, Saitoh K, Otsuki R, Suzuki M, Kuriyama K.	2022.11
5	Subjective sleep onset latency is influenced by sleep structure and body heat loss in human subjects.	共著	あり	BioRxiv	有竹清夏.	2023.3
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者 (発表者は○印)	発表等年月
1	高齢男性における睡眠時間の主観 - 客観乖離と総死亡の関連解析	共同		日本睡眠学会第47回定期学術集会	○内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 斎藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一	2022.6
2	ビツバーク睡眠質問票の基本構造と構成要因の同定	共同		第118回日本精神神経学会	○内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 河村葵, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 斎藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一	2022.6
3	乳幼児の睡眠と発達. 【シンポジウム】	単独		日本睡眠学会第47回定期学術集会, 京都	○有竹清夏	2022.6
4	不眠症と時間認知. 【シンポジウム】	単独		日本睡眠学会第47回定期学術集会, 京都	○有竹清夏	2022.6
5	女性における睡眠と放熱の関連, 運動による効果 【シンポジウム】	単独		日本睡眠学会第47回定期学術集会, 京都	○有竹清夏	2022.6

6	Subjective sleep onset latency is influenced by the sleep structure and body heat loss in human subjects.	共同	SLEEP2022, Charlotte	○Iijima R, Kadooka A, Sugawara K, Fushimi M, Hosoe M, Aritake-Okada S.	2022.6
7	主観的入眠潜時と放熱および睡眠構造の関連性.	共同	日本睡眠学会第47回定期学術集会, 京都	○飯島竜星, 門岡あかり, 菅原海莉, 伏見もも, 細江みずぎ, 大木昇, 有竹(岡田)清夏	2022.6
8	身体運動が若年成人女性の皮膚温変動と睡眠に与える効果	共同	日本睡眠学会第47回定期学術集会, 京都	○伏見もも, 飯島竜星, 木山水月, 久保川媛加, 菅原このみ, 高倉麻里子, 野口史織, 金野倫子, 有竹(岡田)清夏	2022.6
9	身体運動が若年成人女性の熱放散と睡眠に与える効果.	共同	第50回日本女性心身医学会学術集会, 埼玉	○伏見もも, 飯島竜星, 木山水月, 久保川媛加, 菅原このみ, 高倉麻里子, 有竹清夏	2022.6
10	埼玉県立大学における臨地実習前臨床検査技能実習への取組みと現況.【ワークショップ】	共同	第16回日本臨床検査学教育学会学術大会. 埼玉	○有竹清夏, 井原寛子, 安藤克己, 松下誠, 村井美代, 廣渡祐史, 久保田亮, 岸井こずゑ, 矢野哲也, 白土佳子, 岡田茂治, 伊藤さやか	2022.8
11	卵胞期及び黄体期における運動介入が夜間睡眠と遠位-近位皮膚温に与える効果.	共同	第16回日本臨床検査学教育学会学術大, 埼玉	○伏見もも, 飯島竜星, 木山水月, 久保川媛加, 菅原このみ, 高倉麻里子, 有竹清夏	2022.8
12	Reading out sleep spindles from cortical and subcortical brain circuits during sleep.	共同	Society for Neuroscience2022, San Diego	○Uji M, Li X, Saotome A, Katsumata R, Aritake S, Suzuki C, Ueno K, Tamaki M.	2022.11
13	レジスタンストレーニングが女性の熱放散と夜間睡眠に与える効果	共同	第3回日本睡眠検査学会学術集会	○伏見もも, 飯島竜星, 木山水月, 久保川媛加, 菅原このみ, 高倉麻里子, 有竹清夏	2022.11
14	卵胞期・黄体期におけるレジスタンス運動と脳波的睡眠構造の変化.	共同	第52回日本臨床神経生理学会学術集会, 京都	○伏見もも, 飯島竜星, 木山水月, 久保川媛加, 菅原このみ, 高倉麻里子, 有竹清夏	2022.11

(4) その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし				

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	厚生労働科学研究費補助金(21FA0201)	研究課題名:現代の社会生活に応じた適切な睡眠・休養取得のための行動変容促進ツールの作成及び環境整備のための研究	研究分担者	2021.4-
2	文部科学省科学研究費補助金(基盤C:研究代表者)(KAKEN 22K11879)	研究課題名:更年期女性の不眠の病態生理と身体運動に着目した睡眠改善プロトコルの開発と効果検証.	研究代表者	2022.4-
3	文部科学省科学研究費補助金(基盤B:研究分担者)(KAKEN 22H01107)	研究課題名:学習の転移における睡眠の役割とその神経基盤の解明.	研究分担者	2022.4-

3. 教育業績

(1) 講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	生理機能検査学Ⅰ	○	15	2年次前期3.4限 30時間:科目責任者として心電図,脳波,筋電図などの循環器生理学,脳神経生理学領域の基礎および臨床に関する講義,定期試験作成・実施を行った.
2	生理機能検査学Ⅱ	○	8	2年次前期3.4.5限 15時間:科目責任者として呼吸生理学領域の講義,定期試験作成・実施および非常勤講師の対応を行った.
3	生理機能検査学Ⅲ	○	15	3年次前期1.2.3限 15時間:科目責任者として画像検査領域,感覚機能検査領域の講義,定期試験作成・実施および非常勤講師の対応を行った.

4	生理機能特論	○	8	4年次後期2限 15時間：科目責任者として生理機能全般に関する講義・演習を行った。
5	臨床検査概論		1/8	1年次前期5限 2時間：科目担当者として生理機能検査概論を講義した。
6	生体情報評価学		3/15	大学院博士前期課程1年次 6時間：科目担当者として講義を行った。
7	医療科学研究論		4/15	大学院博士前期課程1年次 8時間：科目担当者として講義を行った。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	生理機能演習	○	30	2年次前期3.4.5限 30時間：科目責任者として生理学実習の説明・実演および実習指導を行い、非常勤講師の対応を行った。
2	検査総合演習Ⅱ		2023年2月15日	4年次後期2.3限 4時間：科目担当者として臨床検査科目のうち生理機能検査学について総括を行った。
3	臨床検査基礎演習		-	大学院博士前期課程1年次：科目担当者として演習指導などを行った。
4	健康福祉科学演習		-	大学院博士前期課程1年次：科目担当者として演習指導などを行った。
5	医療科学研究演習	○	-	大学院博士後期課程：科目責任者として演習指導などを行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	生理機能検査学実習Ⅰ	○	23	3年次前期1.2.3限 45時間：科目責任者として循環器、脳神経、呼吸機能の検査項目9種類について実習書を作成し、それをを用いて学生に実習指導を行った。
2	生理機能検査学実習Ⅱ	○	23	3年次後期3.4.5限 45時間：科目責任者として超音波画像、感覚機能の検査項目種類について実習書を作成し、それをを用いて学生に実習指導を行った。
3	臨地実習		2022.12-2023.3	3年次後期 45時間：科目担当者として3年次学生の臨地実習受入施設への訪問・対応、学生対応などを行った。また臨地実習担当として学生の病院施設配置や実習に関するガイダンスなど種々の指導を行った。
4	IPW実習		2022.1	4年次後期 4日間：科目担当者として4年次学生のIPW実習受入施設への訪問・対応、学生対応などを行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4~2022.12	主指導 4名	副指導 名
2	修士論文	2022.4~2023.3	名	副指導（副査） 1名
3	博士論文	2022.4~2023.3	主指導（指導教員） 1名	副指導（副査） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	東京医科歯科大学医学部保健衛生学科	2022.4-	3年次生理検査学Ⅱ：非常勤講師として生理検査学の講義を担当した。	
2	早稲田大学グローバルエデュケーションセンター	2015.4-	メンタルヘルスマネジメント概論：睡眠の生理	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉未来大学 川越学園 前期	公益財団法人 いきいき埼玉	楽しく脳力アップ（注意すべき睡眠障害）	2022.5
2	高校出張講座 群馬県立前橋東高校	地域産学連携	勉強や運動のパフォーマンスを上げるための睡眠のコツ	2022.11
3	草加市睡眠講演会	草加市	ぐっすり眠れていますか。	2022.10
4	一般財団法人 医療・福祉・環境経営機構（mwe）交流会 【本学地域産学連携講座】	一般財団法人 医療・福祉・環境 経営支援機構 全国協議会全国協議会	睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証。“睡眠の質”を高めるための基盤研究・臨床研究を生活に応用。	2022.10

5	群馬県立高崎北高等学校		総合的な探究の時間：音楽と睡眠	2022.8
6	聖和学園高等学校		総合的な探究の時間：夢と睡眠	2023.1
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	日本睡眠学会		評議員, 幹事 (2021.7-)	2007.7-
2	日本睡眠学会		生涯教育セミナー作業部会委員	2007.7-
3	日本睡眠学会		SBR編集局員	2016.7-
4	日本睡眠学会		国際機関誌編集委員会	2016.7-
5	日本時間生物学会		評議員	2010.4-
6	日本PSG研究会		幹事, 学術交流委員会副委員長(2021.6-)	2010.4-
7	日本睡眠検査学会		評議員	2020.9-
8	日本睡眠検査学会		学術交流委員会 副委員長 (2021-) 委員長 (2022-)	2020.9-
9	日本睡眠検査学会		学術企画委員会	2020.9-
10	日本睡眠検査学会		精度管理委員会	2020.9-
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	うつ伏せ寝でも将来的に大丈夫でしょうか		NHKチコちゃんに怒られる	2022.12
2	STORY Web (光文社)		更年期での睡眠を改善する方法とは？ホットフラッシュ、生理前…深部体温を調整すれば『いい眠り』が手に入る！	2023.1
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	産業支援	花王株式会社	共同研究	2021.2-
2	産業支援	山碁株式会社	共同研究	2020.2-
5. 学内運営				
	項目		内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等		奨励研究部会	2020.4-
2	学科等における委員会等		臨地実習担当	2018.4-
3	学科等における委員会等		大学院教務担当, 大学院博士後期課程設置ワーキンググループ	2018.4-
4	学科等における委員会等		将来構想検討ワーキンググループ	2019.8-
5	学生支援		学生担任教員 (3年), 学生担当アドバイザー, 学習及び進路などの相談・支援	2018.4-
6. 受賞 (研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名		主催	受賞年月
1	日本睡眠学会第47回定期学術集会 ベストプレゼンテーション賞		日本睡眠学会	2022.6
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			